

国指定史跡

五郎山古墳 (1)——装飾の壁画



五郎山古墳石室の後室右側壁に描かれた大(上)・小(下)2隻の船(撮影:石丸 洋)

所在地

筑紫野市原田3丁目9番5

発見年

昭和22年(1947)3月に、盗掘孔が陥没して石室の一部が発見された。同年11月に、福岡県教育委員会が発掘調査を行った。

指定年月日

発見直後の昭和24年(1949)7月13日付

外形

最高所より少し南に降った丘陵上に位置している。現状では、径約32m、高さ約5.5mと、当地方では最大級の堂々たる円墳で、2段築成。

石室

前・後の2室をもつ全長11m以上の横穴式で、南西に開口する。通路部分(羨道せんどう)は狭まくて低い、一番奥の遺体を安置する後室



五郎山古墳位置図（国土地理院「二日市」1：25,000）

（^{げんしつ}玄室）は長さ約4.5m、巾3m強、高さ約4mと、意外に広い空間となっている。

副葬品

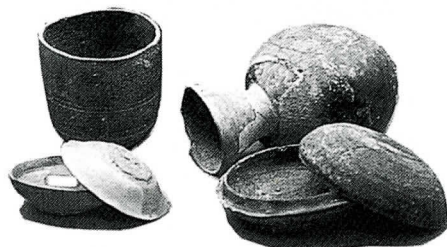
盗掘を受けており、金環（耳輪）・管玉・^{くだ}勾玉、^{とうす}刀子、須恵器他が採取されているにすぎない。

墓主像

他の古墳と同じく、墓主の氏名は不詳。けれども、福岡平野と筑紫平野とをつなぐ地峡、筑前・筑後・肥前の三国境という要衝に位置しているのです。この地域に君臨した一大豪族が^{ほおむ}葬られたもの、と推定される。

年代

古墳時代後期（6世紀後半）とみられる。



五郎山古墳の副葬品。前は杯。後は^{つみ}皿と^{かん}横瓶。五郎山古墳館に展示。

（石山 勲）

